

卒業式に見る袴の現代的着装の研究? : 伝統的な視点から

著者名(日)	田中 淑江, 長谷川 紗織, 大塚 絵美子, 宮武 恵子
雑誌名	共立女子大学家政学部紀要
巻	62
ページ	75-87
発行年	2016-01
URL	http://id.nii.ac.jp/1087/00003066/



卒業式に見る袴の現代的着装の研究Ⅱ

—伝統的な視点から—

A study of wearing modern hakama at graduation ceremony Ⅱ

—From traditional viewpoint—

田中淑江 長谷川紗織 大塚絵美子 宮武恵子

Yoshie TANAKA, Saori HASEGAWA, Emiko OTSUKA, Keiko MIYATAKE

1. はじめに

女子大生の卒業式の袴姿は、明治期の女学生の通学及び式服での袴着用を源流とし、現在では卒業式の装いとして定着している。

本研究は、先行研究「卒業式に見る袴の現代的着装の研究Ⅰ」の継続研究であり¹⁾、伝統的な和服を対象として調査研究を行う被服平面研究室と、現代ファッションを対象として商品企画及びデザインについて調査を行う被服意匠研究室の両研究室による共同研究である。本稿よりそれぞれの視点に立ち、別稿とすることとした。そうすることにより、現代の卒業式の袴の着装についてより明確な言及をすることが出来るのではないかと考えたからである。なお、一次資料として用いる、2015年3月15日共立女子大学被服学科卒業生92名の卒業式当日の袴の着装を撮影した写真は、先行研究と同様に両研究室の共通資料とした(図1)。

拙稿では近年、卒業式の袴の着装に用いられる華やかな小紋や振袖の長着は、20数年前の卒業式で主流であった色無地の長着の装いから変化し、浸透していることを明らかとした²⁾。また、着付け教本にみる卒業式の袴着装に用いる長着の選択の定義も、時代とともに変化した

ことが明確となった³⁾。本稿ではこのように卒業式の袴姿は、時代と共に着装実態や定義が変化しているなか、現代の学生は卒業式の袴着装に対して、どのような認識を持ち装っているのかを考察することを目的とする。

2. 研究方法

2015年3月15日に行われた共立女子大学の卒業式当日に、被服学科学生92名を撮影した。撮影箇所は1全身正面、2全身背面、3全身右側面、4上半身、5衿元、6足元、7頭部、8鞆、9ネイルの9カットである(図1)。

また、学生の卒業式当日の衣装の調達方法や、卒業式に対する意識について情報を得るために、平成26年度卒業生にアンケートを行った。更に、平成27年度大学に在学している女子大生1～4年生にも、卒業式の装いに関するアンケートを行い、卒業生と在学生の袴姿に対する意識の比較を行った。

3. 卒業式の袴の装いの実態

3-1 平成26年度の傾向

卒業式当日に撮影をした写真資料を用い、平



1 全身正面



2 全身背面



3 全身右側面



4 上半身



5 衿元



6 足元



7 頭部



8 鞆



9 ネイル

図 1 共通データ写真



図 2-1 アクセントとなる地色に柄入り



図 2-2 長着または袴と同色の地色に柄入り



図 2-3 アクセントとなる色



図 2-4 長着または袴と同色



図 3-1 単色無地の伊達衿 図 3-2 柄入りの伊達衿



図 3-3 レース付の伊達衿 図 3-4 パール付の伊達衿

成 26 年度の傾向分析を行う。撮影した 92 名の内、袴着用者 88 人を分析対象とした。まず長着を見てみると小振袖 39%、振袖 31%、小紋 24% となった⁴⁾。袴では無地の袴の 44% が最も多く、次いで無地に刺繍入りの袴が 27%、ほかしの袴が 15%、ほかしに刺繍入りの袴は 9% となった。袴下の帯では、アクセントとなる地色に柄のある物 (図 2-1) が 36%、アクセントとなる色の無地の物 (図 2-2) が 27%、長着または袴と同色の地色に柄のある物 (図 2-3) が 22%、長着または袴と同色で無地の物 (図 2-4) が 15% となった。衿元はまず半衿では、無地の物が 49% と刺繍入りの物は 45% で高い割合を占めていた。模様やビーズのついた半衿

もごく少数ではあるが確認された。次に伊達衿は 89% に着用が見られ、単色の無地 (図 3-1) が 48%、柄入り (図 3-2) が 24%、2 色が 22% となった。その他にはレース付のもの (図 3-3) や縁にパールをついたもの (図 3-4) が使用されていた。足元では半数以上の 66% が草履を着用しており、ブーツ着用者は 34% にとどまった。足袋では白足袋が 63%、色足袋とレース足袋はそれぞれ 1% となった。また白地に桜の地紋のある足袋も見られた。鞆は和装用ハンドバックが 35%、次いで巾着が 23%、洋装用鞆が 21% であった。その他では籠付巾着やがま口の鞆が使用されていた。

3-2 平成 25 年度との比較

平成 25 年度と平成 26 年度の装いの傾向の比較を行う。長着は小振袖、小紋、振袖の順に好まれる傾向には変化が見られなかった(図 4)。色無地は兩年とも少数であり、今年度は 3 人の着用であった。袴では無地の袴、無地に刺繍入りの袴、ほかしの袴、ほかしに刺繍入りの袴の順に着用者数が多い傾向に変化はなかった(図 5)。しかし、平成 25 年度は 4 種類以外の袴の着用が見られたが、平成 26 年度では用いられる袴の種類が減少した。袴下の帯では、アクセントとなる地色に柄のある物が兩年とも多く使用されているが、平成 26 年度は長着または袴と同色の地色に、柄の入った帯の使用が増加した(図 6)。

半衿では白色無地または刺繍入りの物がどちらの年度も主流である(図 7)。その他では平成 25 年度ではレースを半衿に利用していた学生が見られたが、平成 26 年度ではビーズの半衿の使用が見られた。伊達衿は、前年度より使用学生が増加していた(図 8)。使用された伊達衿は平成 25 年度は無地単色の物が多数であったが、平成 26 年度では無地単色だけではなく柄物の使用も目立った(図 9)。また昨年度は見られなかったレース付の伊達衿が使用されていた。

足元では、ブーツよりも草履が多く着用されていた(図 10)。今年度は草履とブーツのみの着用であり、平成 25 年度に見られたローファーやパンプスの着用は見られなかった。足袋では白足袋が主流であることは変わらないが、昨年度見られた総柄の足袋や一部柄入りの足袋は用いられておらず、今年度は白地に桜の地紋のある足袋が用いられていた(図 11)。鞆では、和装用バックが多く、巾着や洋装用バックも同数程度みられた(図 12)。今年度は籠巾着やビーズ刺繍のがま口バックが使用されていた。その他の小物を比較してみると、平成 25 年度はミニハットやレースの手袋、ベレー帽等のような小物によって個性を主張する装いの学生が

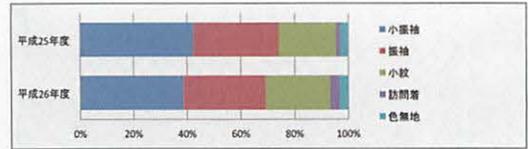


図 4 長着の種類

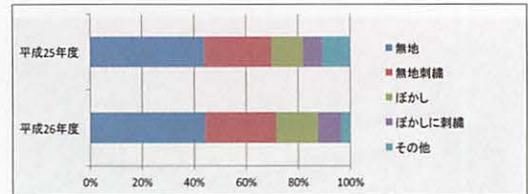


図 5 袴の種類

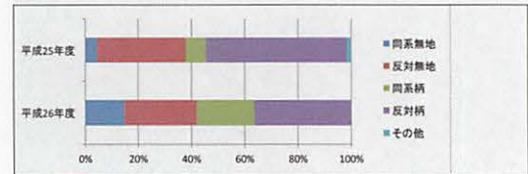


図 6 袴下の帯の種類

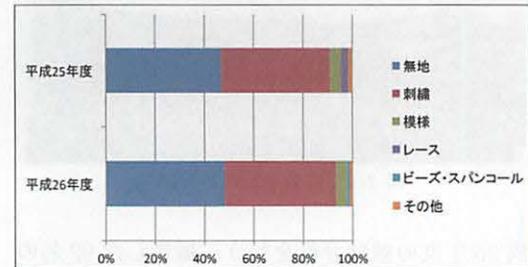


図 7 半衿の種類

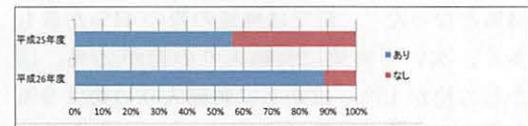


図 8 伊達衿の使用状況

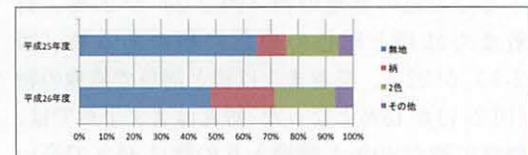


図 9 伊達衿の種類

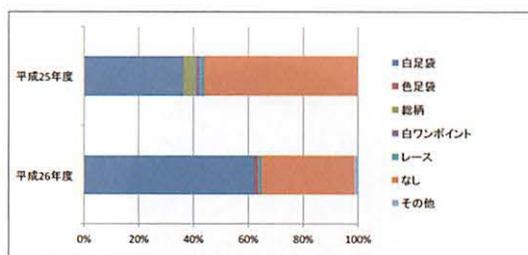


図10 足袋の種類

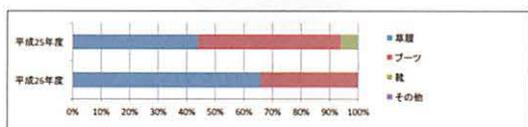


図11 履物の種類

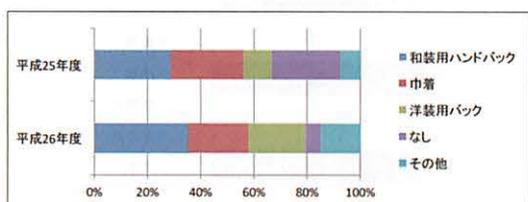


図12 靴の種類

表1 卒業生アンケート設問

設問番号	設問内容
設問1	卒業式で着用する物のなかでレンタルをしたものはありますか。
設問2	長着・袴・小物はどこでレンタルをしましたか。
設問3	レンタルにかかった費用の総額はいくらくらいですか。
設問4	長着はどこで調達しましたか。
設問5	袴はどこで調達しましたか。
設問6	着付けはどこで行いましたか。
設問7	卒業式をフォーマルな場としてとらえていますか。
設問8	その衣装を卒業式に着用する衣服として選んだ理由はなんですか。
設問9	卒業式における伝統的な袴の装いを知っていますか。知っている人は具体的に記入してください。
設問10	袴についての情報はどこから収集しましたか。
設問11	どのような情報を集めましたか。
設問12	卒業式の装いとして、式服としての装いとファッションとしての装いどちらを強く意識しましたか。
設問13	卒業式の装いで1番こだわった点を教えてください。

存在したが、平成26年度は前年度のような個性的な装いはほとんど見られなかった。

また平成25年度と平成26年度の全体の装いの傾向には、大きな変化はあらわれなかった。しかし詳細に比較を行うと、伊達袴や袴下の帯などの小物類に変化が生じていた。

4. 袴の調達方法と袴の傾向

卒業生に行ったアンケート調査では82名から回答が得られた。この内、卒業式当日に袴を着用した77人の回答を対象として集計をおこなった。このアンケートの設問には衣装の調達方法と、卒業式に対する意識についての設問を設けた(表1)。

まずアンケートを基に、調達方法を比較すると、グループ①「長着と袴をレンタルした」、グループ②「袴のみレンタルをした」、グループ③「長着も袴もレンタルしていない」の3つのグループに分けることが出来た(図13)。今回の調査では長着のみレンタル業者を利用している学生はみられなかった。これらのグループの長着と袴の種類、及び当日の支度方法の傾向を比較する。

長着の選択ではグループ①は小振袖、グループ②では振袖が多く着用されており、グループ③では小紋が最も着用されていた(図14)。袴の選択では、グループ①では無地の袴に刺繍入りが多く、グループ②では無地とぼかしの袴が多く着用されていた。グループ③は無地が多くみられた(図15)。当日の着付けではグループ①は袴をレンタルした際に、バックに含まれている着付けの利用が最も多い。中には美容室での着付けも数名見られた。グループ②では、レンタルに含まれる着付けと美容室の利用が半々であった。また親族による着付けも少数存在した。グループ③では自分で着つけるまたは親族や友人といった周囲の人に着付けてもらう学生がほとんどであった(図16)。

グループ①で小振袖と無地に刺繍入りの袴が

多く着用されているのは、レンタル業者が発行しているカタログの影響が考えられる。本学にて袴のレンタルを行っている 3 社の平成 26 年度のカタログ『卒業時装』⁵⁾『袴』⁶⁾『卒業袴』⁷⁾を見てみると、カタログはモデル着用のページと、長着と袴の組み合わせのページで構成されている(図 17)。その中でモデルが着用している長着に注目すると、全て小振袖である。袴は『卒業時装』、『袴』では無地に刺繍入りの物が最も多く、『卒業袴』では無地の袴が最も多く用いられていた。(図 18)これは本学学生の着用傾向とほぼ合致している。

グループ②では振袖が多く着用されているという特徴がある。これは成人式の振袖を購入またはレンタルをすると、卒業式の袴が無料または割引価格でレンタルをすることが出来る特典が存在している。実際にこの特典を利用している学生もアンケートより確認された(やまと・鈴乃屋・旭屋呉服店・京都きもの友禅など)。また振袖の着用について、「成人式に誂えても他に着用の機会がない」、「誂えた振袖を気に入っているから」といった理由が、学生から挙げられている。振袖に対する愛着はあるが、着用場面が少ないと感じている学生はこの様な特典を利用する傾向があり、グループ②における振袖の着用率の高さと結びついていると考えられる。

グループ③では長着が手元にあり、自分で袴の着つけが出来る、または周囲に着つけが出来る人がいるという環境にある学生が多くみうけられる。本学は授業で袴長着の制作をおこなうため、小紋や色無地を扱う学生が多い。したがって、それを卒業式に着用する学生が毎年存在する。また卒業制作などで袴の制作も行うため、レンタルをせず用意することが可能になる。自作した学生以外の学生は、インターネットや着物の古着を取り扱う店舗などで購入をしていた。袴のみレンタルをする場合、8,000円～16,000円程度費用が掛かるが⁸⁾、インターネットでは3,000円程度から、着物のリサイクルシ

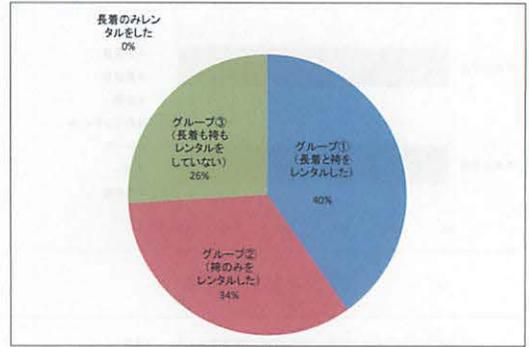


図 13 衣装の調達方法

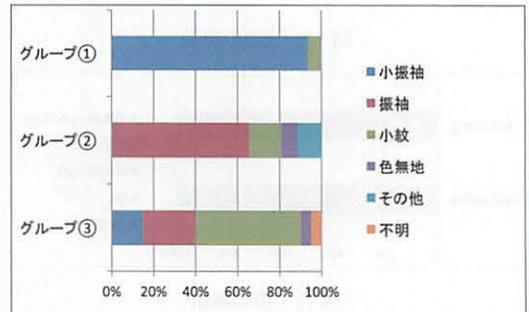


図 14 グループ別長着の種類

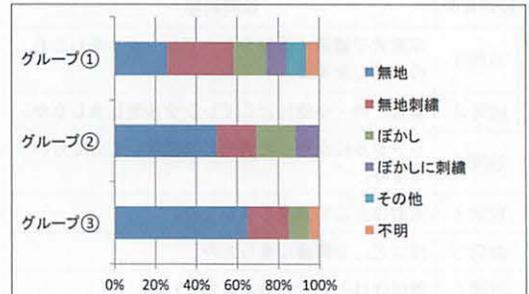


図 15 グループ別袴の種類

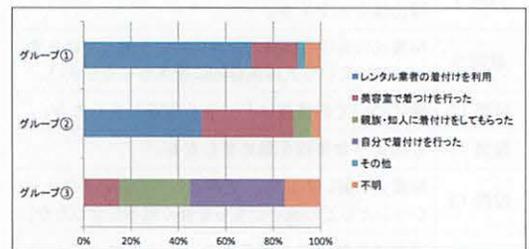


図 16 グループ別当日の支度方法



図17 左：カタログモデル着用ページ 右：長着と袴の組み合わせページ 『袴』より転載

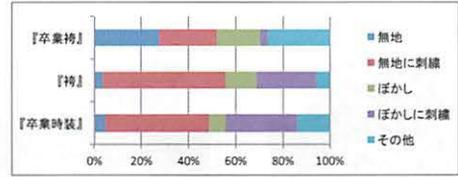


図18 カタログに見る袴の種類

ヨップ等では1,000円程度の価格で購入することが可能である^{9) 10) 11) 12)}。レンタルの料金と購入金額を比べて、購入の方が安く済むため購入したという意見も学生から挙げられた。

5. 卒業式に対する認識と衣装選択の傾向

5-1 アンケートについて

現代における卒業式に対する認識と、卒業式当日の衣装選択の傾向を知るために、卒業生と在學生にそれぞれアンケート調査を行った。卒業生に対するアンケートは、前述で扱ったアンケートを用いた(表1)。在學生に対するアンケート(表2)は、本学の学生108名と、日本女子大学の学生57名の合計168名から回答を得ることが出来た。在學生に対してのアンケートの実施方法は、卒業式の衣装について事前に伝統的な装いと、卒業式の袴姿に用いられる長着と袴、履物の種類について画像を用いて説明した後、アンケートを行った(図19)。ここでの伝統的な袴の装いとは、紋付色無地に紺の袴を身付け、草履を履いた姿のことである¹³⁾。

5-2 卒業生のアンケート結果

まず表1 設問7「卒業式をフォーマルな場としてとらえていますか」に対して、97%が「は

い」と回答をした。次に設問8「その衣装を卒業式に着用する衣服として選んだ理由は何ですか」では、64%が「記念になるから」と回答し、「式服であるから」と回答した学生は15%であった。「周囲が着るから」「無難であるから」と回答した学生はあわせると17%となった。設問9「卒業式における伝統的な袴の装いを知っていますか。」に対して、96%が知らないと回答した。知っていると回答した学生は3人いたが正確な知識を持っていたのは1人だけであった。設問10「袴についての情報はどこから収集しましたか。」では、インターネットが33%、雑誌及び書籍、フリーペーパーがそれぞれ18%、家族が11%となった。設問11「どのような情報を集めましたか」では「長着と袴のコーディネート」が63%、「ヘアスタイル」と「価格」がともに14%であった。設問12「卒業式の装いとして、式服としての装いとファッションとしての装いどちらを強く意識しましたか。」では、「式服としての装い」が47%、「ファッションとしての装い」は53%という結果となった。設問13「卒業式の装いで1番こだわった点を教えてください。」に対しては、「自分に似合うかどうか」、「長着と袴の色の組み合わせ」等の回答が挙げられた。



図 19 在学生事前説明使用画像 (長着、袴、履物の種類)

5-3 在学生のアンケート結果

まず表 2 設問 1「卒業式をフォーマルな場としてとらえていますか」に対しては、93%が「はい」と回答した。設問 2「卒業式に着用したい衣服はなんですか」では、85%が袴を着用したいと回答した。設問 3「卒業式でその服装を選んだのはなぜですか」に対して、「記念になるから」が73%、「式服であるから」が8%、「周囲が着るから」が7%であった。他には、「袴を着る機会がなかなかないから」、「卒業式でしか着ることがないから」、「そういうものだと思

っていたから」などが挙げられた。設問 4「卒業式で身につけたい長着はどれですか」では、小振袖 57%、振袖 20%、小紋 12%、色無地 10%であった。設問 5「卒業式で身につけたい袴はどれですか」に対しては、無地に刺繍 40%、無地 32%、ほかしに刺繍 18%、ほかし 10%となった。設問 6「卒業式で履きたい履物はどれですか。」に対しては、草履が 55%、ブーツが 42%となった。設問 7「当日の装いで は式服としての装いとファッションとしての装いどちらを強く意識しますか。」に対しては、「式

表2 在学生アンケート設問

設問番号	設問内容	選択肢
設問1	卒業式をフォーマルな場としてとらえていますか。	1. はい 2. いいえ
設問2	卒業式には着用したい衣服はなんですか。	1. 袴 2. 振袖 3. スーツ 4. ワンピース 5. その他
設問3	卒業式でその服装を選んだのはなぜですか	1. 記念になるから 2. 周囲の人が着るから 3. 式服だから 4. その他
設問4	卒業式で身につけたい長着はどれですか。	1. 色無地 2. 小紋 3. 小振袖 4. 大振袖 5. その他
設問5	卒業式で身につけたい袴はどれですか。	1. 無地 2. 無地に刺繍 3. ぼかし 4. ぼかしに刺繍 5. その他
設問6	卒業式で履きたい履物はどれですか。	1. 草履 2. ブーツ 3. その他
設問7	卒業式の装いとして、式服としての装いとファッションとしての装いどちらを強く意識しますか。	1. 式服としての装い 2. ファッションとしての装い

服としての装い」72%、「ファッションとしての装い」28%という結果となった。また伝統的な袴の装いについての説明において、「伝統的な袴の装いについての知識を持っているか」を口頭で尋ねると、以前から知っていたという学生は見られなかった。

5-4 考察

これらのことから、学生は卒業式をフォーマルな場ととらえているが、身につける衣装に対しては、式服としてよりも、記念としての意味や日常の衣服を選ぶのと同じように、自分に似合うかどうか、また自分らしさを求めて選択することがわかった。更に学生は、卒業式をフォーマルな場として認識しているが、そこで身につけるべき衣装については、フォーマルであることをあまり意識していないという矛盾が生じていることが分かった。これは卒業式という式典の場に対して、TPOを考慮した装いをしたいという意識はあるが、その装いに対する知識が伴っていないという実態を示している。

例えば式服としての装いを重視した学生と、ファッションとしての装いを重視した学生の袴のコーディネートと比較すると、顕著な差は見られなかった(図20)。両者とも小振袖や振袖等華やかな長着と、装飾の施された袴を身につけていた。式服としての袴の装いとは前述のように、伝統的に紋付き色無地に無地の袴、足元は草履の組み合わせのことをさす。本調査で紋付色無地を着装していた学生3名の装いを見てみると、袴は無地、無地に刺繍入り、ぼかしと様々な袴を身につけている。足元は草履が着用されていた(図21)。紋付色無地を着用した理由には「ほかの人と同じにはなりたくない」「祖母または母が用意してくれた」などが挙げられた。他の人と同じになりたくないという思いで紋付色無地を選択することは、紋付色無地が本来の式服としての定義に基づいて選択されていないことを示す。すなわちこの学生にとって色無地は、他の人との差別化や、振袖や小紋と同様に個性を表現するための長着として位置していると考えられる。また祖母や母親が色無地を用意してくれたことは、以前は紋付色無地が卒業式における衣装であったことを示している。

一方、書籍における卒業式の袴の装いの記述については先行研究¹⁴⁾において明らかであるよ



図 20 上段：式服としての装いを重視した学生
下段：ファッションとしての装いを重視した学生

うに、時代が進むにつれ定義が変化をしている。その内容は以前に比べ着用できる袴下の長着の種類は色無地から振袖、小紋へと幅の広がりを示し、式典にふさわしい装いを心掛けるなどの言葉も併記されていた^{15) 16) 17)}。しかし2015年に出版された書籍には「袴に合わせるきものは、小紋、色無地など自由に選べます。」と記載されている(点筆者)¹⁸⁾。また同年に出版された別の書籍には卒業式の袴姿については、「今では、女子袴姿は卒業式の定番ファッションとなり、そのコーディネートも多様で個性的です。」と記述されている(点筆者)¹⁹⁾。このように世

間の卒業式の装いに対する定義は、伝統的な装いを重視する衣装ではなく、個性を表現することが可能である衣装へと変化した。このため現在では、本来の式服の定義に基づく装いを求める方が困難な状況である。

また意識の側面からは、卒業式に袴を身につける理由で最も多い解答は卒業生、在学生ともに「記念になるから」である。他の理由として「卒業式でしか着る機会がないから」、「一生の内ではなかなか着る機会がないから」なども挙げられている。これらの理由から、学生にとって袴姿は卒業式のための特別な衣装であると考え



図 21 紋付色無地着用学生

ていることがうかがえる。更に卒業生が当日の衣装を選ぶ際もっともこだわるのは、「自分に似合うかどうか」、「長着と袴の組み合わせ」であり、場面にあわせて衣装を選ぶのではなく、自分を主体として衣装を選んでいることが示された。

このような学生の卒業式における、袴に対する従来の意識を先行研究に求めると、1990年の樋泉らによる先行研究²⁰⁾では、袴は卒業式における晴れ着として位置づけられている。卒業式で袴を着用することについて「伝統的で独自性がありレトロ気分にはたれ、普段とは異なる自分を演出できる」と述べられている。また呑山らによる1993年の先行研究²¹⁾では、卒業式当日の服装についての感想の中で、「着ることが出来て嬉しかった」、「華やかでかわいくてよかった」、「よい記念になった」の項目が上位を占める結果が示されている。このように学生が着装する卒業式の装いは時代とともに変化をしても、卒業式に装う袴についての意識はほとんど変化をしていないことが明らかとなった。これらのことから、学生が選択し着装する袴姿の変化は、年々希薄となる伝統的な和服と現代日本人の関係を表していると考えられる。すなわち和服を着る機会や、和服に関する知識をよく知る

人が減少している現代において、本来の定義が薄れ変化していくことは、避けられない現象なのであろう。

6. まとめ

平成26年度の卒業式における袴姿の傾向は、装飾華やかな装いはほとんど見られなかったが、伝統的な袴の装いとは異なる、近年の定義による袴姿の傾向を示した。したがって、定義自体が変化した世の中において、学生が選択する卒業式の袴の装いは、現代における卒業式の袴姿を象徴するのであろう。また学生にとって卒業式はフォーマルな場という認識はあるが、実際に身につける衣装は非日常性を演出し、また個性を表現するための手段である。すなわち卒業式とは袴姿で着飾って出席する記念日、イベントであると認識していると言える。先行研究や本調査、書籍を見ると、この傾向は今後も変わることはないのではないかと推察する。

このように、女子大生の卒業式における華やかな袴姿は世間に定着している。一方で女子大生のほかに、女性教員も卒業式で袴を着用する。2015年のマルイの教員向けの袴のレンタル広告には「清楚な色無地 先生にお勧めの卒業衣

装」との文言が記載されており、袖丈が約 49cm の色無地と無地の袴が掲載されている。これは伝統的な卒業式における袴の装いに基づいた組み合わせである。両者とも卒業式における袴の装いであるが、装いに明らかな違いが見られる。卒業生は自身が卒業式における主役であるため、華やかに装う傾向を勧められ、教員は生徒の門出を祝福する立場であるため、落ち着いた着きのある伝統的な装いが求められるのであろうか。このような違いはそれぞれの卒業式における立場の違いから生じたのと考えられるが、まだ事例として新しく、少ない情報であるので、今後どのような傾向が示されていくか注目したい。更に別の事例としては、近年では小学校の卒業式の衣装としても着用され始めている。このように着用年代や着用対象の広がりを見せる卒業式の袴姿は、七五三の着物や成人式の振袖と同様に、記念日のための衣装として発展、定着している。このことは呉服業界において、安定的な需要が見込める和服としての地位を確立していると思われる。

本研究において、学生が式典の場にふさわしい装いの知識を持っていないことは、危惧すべきであると考えられる。現代の卒業式の袴姿は、学生にとって記念的な意味合いが強い衣装である。服装に個性を表現することは個人の自由であり、時代とともに服装の定義は変化している。しかし伝統を知らず、自分の好みを反映させた装いを個性と表現することと、伝統を受け入れそのうえで変化していくことは、意味合いが全く異なる。

基本に立ち戻れば、本来卒業式は式典、すなわち儀式の場であるので、まずはその場に出席する心構えは忘れてはいけないと考える。また必然的に、そこで装う袴姿は、和服を装う時に大切と考えられている、場をわきまえた調和といったものが求められる²¹⁾。それは装飾華美な小物類、例えば洋装に用いられ、普段着の和服では許されるであろう、ビーズやスパンコール、レースなどを多用し、飾り立てるようなことは

好ましくないと思われる。また、長着、袴、小物類の模様や色などの調和も大切なのではないかと考える^{23) 24)}。人目を惹く鮮やかすぎる色合いや、はっきりとした大柄などは儀式にはあまりふさわしいとは思われない。卒業式に求められる袴姿は、場をわきまえた上品な装いであることを前提に、自分らしさを表現する装いを選択できるよう、教育現場においてこれらの伝統やマナーを教えていく機会を設けていきたいと考える。

註

- 1) 田中淑江、長谷川紗織、大塚絵美子、宮武恵子、卒業式に見る袴の現代的着装の研究 I、共立女子大学紀要、2015,p61
- 2) 1) p25 1992 年に行われた調査結果では、色無地が 58,2%、訪問着 20,4%、振袖が 5,3% であり色無地が主流であった。2014 年の調査では小紋が 48%、振袖が 45%、色無地 1% との結果となった。
- 3) 1) p25 1983 年、1992 年版の定義では「色無地が一般的」「紋付色無地が適している」と述べられていたが、2012 年の定義では、「振袖、訪問着、附下、色無地、小紋などに袴などをつけられると定義が変化した。
- 4) 袖丈 76cm ~ 86cm の長着を小振袖とし、87cm 以上の袖丈を振袖とする。小紋とは繰り返し模様の型染めの着物のことである。(社) 全日本きもの振興会、ひと目でわかるきもの用語の基本、世界文化社、2008,p10-11,p15
- 5) 卒業時装、丸昌、2014
- 6) 袴、主催マイム、協賛ハクビ、2014
- 7) 卒業袴、ジョイフルまるやま、2014
- 8) 5) 6) 7) に同様
- 9) 京越卸屋 [http://item,rakuten,co,jp/kyoetsu-orosiya/mujihakama/](http://item.rakuten.co.jp/kyoetsu-orosiya/mujihakama/) (平成 27 年 10 月 8 日)
- 10) 部坂呉服店 <http://item,rakuten,co,jp/>

- hesaka/a12-300-624(平成27年10月8日)
- 11) 着物リサイクルかないや <http://www.kanaiya.co.jp/?p=list&c=AAAF&d=f> (平成27年10月8日)
- 12) たんすや浅草新仲見世店 (平成27年1月6日時点)
- 13) 熊田知恵他, 和服－平面構成の基礎と実際－, 衣生活研究会, 1987, p28
- 14) 3) と同様
- 15) 赤平清仙, 手結び着つけ きものの着方と帯結び, 日本文化きもの学院, 1994, p50 「式典にふさわしい色無地と袴の取り合わせです。袴に合わせるきものは色無地のほか、振袖、訪問着、江戸小紋、附下でもかまいません。」
- 16) 横山千年枝, 和服寸法百科, 西陣織工業組合, 1994, p107 「袴の下に着るきものは振袖、訪問着、つけ下げ、色無地、小紋などさまざまで、袴の装い方も従来ある着装法にとらわれない自分に合わせた個性的な装い方が流行しています。しかし改まった場所では品格ある袴の装いを心掛けたいものです。」
- 17) 野間佐和子, 着つけと帯結び, 講談社, 2001, p51 「きものは中振りそでや小振りそでを合わせてもかまいませんが、あまりはなやかなきものより一つ紋つきの色無地が上品で清楚です。」
- 18) 富川匡子, きもの文化検定公式教本Ⅰ「きものの基本」六訂版, 一般社団法人全日本きもの振興会編, 2015, p23
- 19) 荘司礼子, 着付の技 [改訂版] かさね、あわせ、むすぶ, 学校法人国際文化学園・国際文化出版局, 2015, p99
- 20) 樋泉倭子、長井満里子、中川早苗, 女子大生の晴れ着に対する着用嗜好と評価の関連について, 日本家政学会誌 Vol, 41No.4, 361～368, 1990, p73-80
- 21) 呑山委佐子・都筑昌子, 女袴と卒業式の服装, 大妻女子大学紀要－家政系－, 1993, 第29号, p 33-48
- 22) 装道きもの学院, 装道きもの学院テキスト 初修課程・理論編, 装道きもの出版局, 1987, 44
- 23) 最新版きものに強くなる事典, 世界文化社, 2013, p152 「吉祥文様とよばれるおめでたい文様や有職文様、正倉院文様などは礼装用のきものにつかわれます。先の2つにあてはまらない幾何学文様や現代柄などは、主にカジュアルな装いに用いられる文様です。」森荷葉: 写真でわかるきもの用語辞典, ナツメ社, 2011, p160 「檜扇や御所車など典雅な王朝風のは礼装や晴れ着に向く文様です。」
- 24) 最新版きものに強くなる事典, 世界文化社, 2013, p63 「帯揚げの(中略)地色のあるものは準礼装以下の装い用となり、色が濃くなるほどカジュアルダウンする傾向にあります。」森荷葉: 写真でわかるきもの用語辞典, ナツメ社, 2011, p62 「刺繍半衿は、礼装用から普段着用まで幅広く、白地に金銀などの糸でおめでたい柄が刺繍されたものは留袖や訪問着に、色半衿に刺繍が施されたものは洒落着用が基本。」